

相談支援だより

群馬県立太田特別支援学校
第2号 令和2年12月

「落ち着きがない子」への理解とかかわり方

子どもは元々動きが多く、落ち着きがないものですが、各年齢で予想される以上に動き回ったり元気すぎたりする子どもは「落ち着きがない子」と言われてしまうかもしれません。

その背景にあるものとして、しつけ不足やわがまま、努力不足と誤解させることがあります。しかし、そうではありません。子どもが何に困り、どうしたらそれをやわらげることができるかを具体的に考えていくことが大切です。かかわり方の例を紹介します。



落ち着きがない行動の例

- 人の話を聞けない。
- 危ないことをする。
- おしゃべりが止まらない。
- 待つことが苦手。
- 椅子に座って食事ができない。
- 注意をしても同じことを繰り返す。



行動の背景にあるもの

- 何か思いついたり気になったりする。
- 周りのことが気になり、気が散ってしまう。
- 注意や集中力が続かないことがある。
- 興味があるもの・ないものに偏りがある。 など

かかわり方のポイント ～いくつかの例を紹介します～

思い出し気づかせる言葉かけを

自制心や感情のコントロール力が弱い子には、行動する前に「順番に並びましょう」「歩いて行こうね」などと言をかけて、正しい行動を伝えたり事前に想定される混乱をなくしたりする工夫をしましょう。



遊びや学習を通じた発達の促しを

動きをコントロールできない子、おもちゃでうまく遊べない子もいます。発達に合わせた遊びや活動を通して様々な動作を引き出すことが大切です。また、動きのコントロール力を育てるために、合図に合わせて動く運動・緊張をゆるめる運動・手や足を連携させる運動などを活動の中で取り入れる方法もあります。

役割を持たせる・動ける時間の確保を

動きたいことを押さえようとするだけでなく、配布物を配ってもらったり移動の際に人数を確認する係になってもらったりして何らかの役割を持たせることもよいでしょう。

また、あえて用事を作ってあげて「動ける時間の確保」をすることも一つの方法です。

<引用文献>

- ・西東社 「発達障害の子どもの心と行動がわかる本」
- ・すずき出版
「落ち着きのない子どもたち・多動症候群への理解と対応」

<お気軽にご相談ください>

群馬県立太田特別支援学校 専門アドバイザー 武田久美子
TEL:0276-32-3939 FAX:0276-32-4224
E-mail : k-takeda@edu-g.gsn.ed.jp